

令和5年度「授業改善推進プラン」（全体計画）

板橋区立下赤塚小学校

■児童・生徒の学力の状況

- 学力調査の結果は概ね良好である。
- 国語科では、図表やグラフを用いて自分の考えが伝わるよう書き方を工夫し記述することに課題がある。
- 算数科では表の中から知りたい数字を見つけ出したり、求め方を式や言葉をつかって記述したりするに課題がある。
- 求める答えに必要な情報を取り出したり、結びつけたりしたりし、記述にまとめることが苦手な児童が一定数存在している。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 児童一人ひとりの考えを友達同士で交流する場面で対話を通して互いを高め合い、深い学びにつなげる指導を工夫する必要がある。
- 本時のめあてが達成できたかを児童自身が振り返り、学んだことを言語化する時間を確保する。
- 文章をじっくり読んで理解し、写真や図グラフなどと結びつけて記述する時間を確保する。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 「板橋区授業スタンダード」に基づいた授業を実施し、学習内容の確かな定着を図るとともに、一人一台端末を活用して個に応じた指導の充実を図る。
- NIE教育を核とし、社会に対する広い視野や多様な考え方を育むとともに、「読み解く力」を育成する。
- 学びのエリア（赤三中・紅梅小・赤塚小・赤塚新町小・本校）内で定めた6つの約束（挨拶・身だしなみ・聞き方・姿勢・納期を守る・時間を守る）を徹底し、学習規律を確立する。
- 教科担任制を3年生から実施し、多くの目で子どもを育てる指導体制を構築することで、授業の充実と児童理解の深化を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底 ○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。	読み解く力の育成 ○NIEタイムを定期的に実施し新聞を読み、理解し、疑問に思ったり考えたりしたことを友達に伝える活動を通して読み解く力を育成する。	総合的な学習の時間との連携 ○学びのエリアにおける小・小連携ならびに小・中連携によるSDGs交流会を行い、総合的な学習の時間を中心とした探究的な学習の充実を図る。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学校の全ての教育活動においてSDGsの目標達成との関連を意識して活動を行い、学校全体でSDGsの目標達成をめざしていく。 ○地域の教育施設（郷土資料館、美術館等）を活用して郷土愛を育成する。	○探究や体験を通した課題発見・解決をする。 ○身近な働く人や仕事に触れ合い、いろいろな職業や生き方があることを学ぶ。 ○体験活動を通して仕事の大切さや働くことの喜びを味わう。 ○社会や自然、暮らし、生き方への関心をもつ。 ○友達、地域の方、多様な人々との交流を行う。	○板書を撮影し、クラスルームに掲載することで授業を振り返り、わからない箇所について自分のペースで確認できるようにする。 ○ミライシードを利用し、友達の意見や、作品を観覧できるようにし、交流の機会を多く設けるようにする。 ○学級活動の充実を図り協働的な学びの土壤をつくっていく。